

ティーチング・ステートメント

所属 保健医療学部診療放射線学科

名前 小倉 巧也

作成日 2022年3月10日

【責任】

診療放射線学科の教員として、放射線計測や安全管理に関する教育・研究活動を行っている。主たる教育活動は、診療放射線技師国家試験に該当する科目（診療画像技術学、画像解剖学演習、放射線安全管理学、関係法令等）の講義、ゼミ生の研究支援、国家試験対策である。ほか、学生支援センター主任、教務委員として学生支援を行っている。

【理念】

生涯にわたって学び続け、社会で大いに活躍できる地力のある学生を育成する。診療放射線に関する技術は日進月歩である。診断分野のみならず、治療分野においても診療放射線技師が活躍する場面は多く、医療における診療放射線技師の果たす役割は大きい。実際、近年の診療放射線技師法の改正によって業務範囲が拡大している。日々進歩する診療放射線技術を能動的に学び続け、患者に最良の放射線診療を提供することが可能な人材を育成する。

また、社会的に規範となる人材の育成に寄与する。医療従事者として必要な資質・能力は知識だけではない。患者に安心して医療を受けていただくためには、信頼感を創出可能な人間性に優れた人材を育成する必要がある。

上記の通り、生涯にわたり自己研鑽し続ける人材並びに人間性に優れた人材の育成に尽力する。

【方針・方法】

上記の理念を実現するために、「基礎知識を確実に身につける」「学生の能動的な学習を支援する」「教員が自ら規範となるようルールを守る」の3つの方針を基に教育活動を展開している。

「基礎知識を確実に身につける」

・講義では、授業開始時に前回範囲の小テストを積極的に実施し、知識の定着度を確認している。その結果は成績判定に用いる他、学生の苦手分野の把握や知識獲得のためにケアが必要な部分を把握するための情報としている。また、必要に応じて小テストの結果を踏まえて講義資料をアップデートするなど、授業にフィードバックするよう心掛けている。

・小テスト実施後、すぐに解説を行うことで、誤った知識を誤ったまま定着させないよう工夫している。また、解説を聞いた上で理解が困難であった学生については、講義終了後に随時フォローしている。

・講義資料の最初に前回講義の復習も取り入れている。繰り返しの知識教授によってより深い知識の定着に寄与している。

「学生の能動的な学習を支援する」

・一方向的な講義形式にならないよう、1回の講義に複数回演習活動を取り入れている。

・講義終了直後に学生から質問を受け付ける時間を確保し、その旨アナウンスしている。

「教員が自ら規範となるようルールを守る」

・講義進度を適切に管理し、終了時間を厳守するよう心掛けている。

【成果・評価】

・授業評価アンケートでは大半の学生から満足との評価が寄せられている。

・2021年度の診療放射線技師国家試験の合格率は、現役学生で100%を達成している。

・複数のゼミ生について、全国的な研究会でその研究成果が評価され表彰されている。

https://www.radi-edu.jp/radi/wp-content/uploads/2021/10/2021_winning_works_list.pdf

【目標】

- ・単なる国家試験対策ではなく、学問として本質を理解してもらえるような講義を実施していく。(2022年9月)
- ・学生が能動的に学ぶ姿勢についても適切に評価できるシステムを考え、取り入れていく。(2022年9月)
- ・様々な方策により得られた教育効果については、適宜発表・報告を通して広く情報公開していく。